

平成27年3月29日(日)

老球の細道133号

死はおそらく生物にとって最高の発明です

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

米誌フォーチュンは先日「世界の最も偉大な指導者50人」を発表、1位に米アップルの最高経営責任者タイム・クックを選出した。選出の理由は、伝説的な経営者で2011年に死去したスティーブ・ジョブズ氏の後を継いで「アップルを力強く率い、驚くべき方向も示した」ということ。日本人では50位に横浜国大の宮崎昭氏(動物生態学)が入る。

享年56という若さで亡くなったアップル創業者のスティーブ・ジョブズ氏は世界を変えた強烈な個性と人生が話題になった。そして数々の名言を残した。その中でも2005年スタンフォード大学の卒業式でのスピーチは伝説となって語り継がれている。スピーチの内容は人生から学んだ3つ話から構成されているが、下記は3つ目の話である。

【私は17の時、こんな言葉をどこかで読みました。「毎日、これが人生最後の日と思って生きなさい。やがて必ず、その通りになる日がくるから」それは私にとって印象的でした。そしてそれから現在に至るまで33年間、私は毎朝鏡を見て自分に問いかけてきました。「もし今日が自分の人生の最後の日だとしたら、今日やろうとしていることを私は本当にやりたいだろうか?」と。その答えが「ノー」である日が続くと、そろそろ何かを変える必要があるとわかります。

自分がそう遠くないうちに死ぬと意識しておくことは、私がこれまで重大な選択をする際の最も重要なツールでした。ほとんどのものごと、外部からの期待、自分のプライド、屈辱や挫折に対する恐怖、こういったもののすべては死に臨んでは消えてなくなり、真に重要なことだけが残るからです。自分も死に向かっているという自覚は、私の知る限り、何かを失ってしまうかもしれないという思考の落とし穴を避けるための最善の策です。あなた方はすでに丸裸です。自分の心に従わない理由はありません。

誰でも死にたくありません。たとえ天国に行きたいと願う人でも、そこに行くために死にたいとは思いません。しかし死は、私たちすべてが共有する行き先です。かつてそこから逃れた者は1人としていません。死はおそらく、生物にとって最高の発明です。それは生命にとって、古いものを取り除き、新しいものための道を開いてくれる変革の担い手です。今、「新しいもの」とはあなた方です。しかしそれほど遠からぬうちに、あなた方もしだいに「古いもの」となり、取り除かれる日が来ます。ドラマチックな表現で申し訳ありませんが、これが真実です。

あなた方の時間は限られています。他の誰かの人生を生きて無駄にしてはいけません。ドグマにとらわれてはいけません。それは他の人たちの思考の結果とともに生きることだからです。他人の意見の雑音によって自分の内なる声がかき消されてしまわないようにしてください。そして最も重要なことですが、あなたの直感に従う勇気をもってください。心や直感、あなたが本当は何になりたいのかをすでに知っています。他のことはすべて二の次です。(中略)

ハングリーであれ。愚か者であれ。私は常に、自分自身そうありたいと願い続けてきました。そして今、卒業して新たな人生に踏み出すあなた方に対しても、同じことを願っています。ハングリーであれ。愚か者であれ】